

高瀬由美 Yumi Takase

昭和41年生まれ。大学卒業後、大阪の百貨店で3年間勤務。その後リターンし、家業を継ぐ。仕事の傍ら災害支援や加西市民劇団おおきな木、こども狂言塾応援隊など精力的に活動。加西サイサイまつりの「お化け屋敷」のお化けのメイクも担当する。



こども狂言塾生のお姉さんの存在。笑顔を交え丁寧に指導する(左)「ボニー」は父がつけた屋号なんですと店内で(右)

表紙	01
キラリびと 高瀬由美	02
特集	
令和5年度予算	04
市政情報	08
TOPICS デジタル田園都市へ	08
イベントカレンダー	14
まちかど PHOTO ★ニュース	16
くらしお役立ち情報	19
わくわく子育て情報	25
そうだ!図書館へ行こう	26
かさい消防ニュース	
おくやみ/各種相談	27
とびだせ!かさいっ子	28
加西から広めよう世界の輪 みんなで使おう加西弁	

KASAI データバンク

R5.2.28 現在 (前月比)
人口 / 42,184 人 (-38)
男 / 20,693 人 (-6) 女 / 21,491 人 (-32)
世帯数 / 18,326 (17)
2月の出生数 / 16 人 死亡数 / 56 人
● 4/12、26 は市民課・国保医療課窓口を延長 (17:15 ~ 19:00)

を知らない世代が増えてきており、風化させないため、そして感心を持ってもらうためにあえて一緒に行くそうです。被災地では主に子どもや高齢者の相手をするという、避難生活のストレスを少しでも和らげ、バールン作りなど、遊びを通じた「心のケア」の機会をつくる活動をしています。

これらの活動がきっかけで「ハチドリまつり」が始まり、高瀬さんも活動に参加。2011年から日吉神社で毎年開催し、集まった義援金や収益は災害ボランティアの活動資金に充てています。



東日本大震災での支援活動。宮城県山元町の公民館で被災地の子どもたちと遊ぶ

加西能への思い

加西市の能・狂言プロジェクトにも第1回から携わっており、野村萬斎さんから狂言師の先生方と当初より関わりを持っています。加西能で塾生たちが演じる新作狂言

「根日女」。「まだ動きはバラバラですけどね(笑) 当日は、気持ちを入れて演じます」とお稽古に励みます。そして、「毎回演出が変わる所が見どころ。子どもたちが精一杯演じている姿をぜひ見に来てほしい」と呼びかけます。

また、能・狂言は難しいイメージがありますが、例えるなら「能は神話を題材にしたシェイクスピアで、狂言は、話をコミカルに演じるコメディ」だといい、楽しむコツを教えてくださいました。

加西能への思いを聞くと「10年20年で終わらせたら文化にならな

い。根付かせようと思うなら、若い人が伝えていかなければだめ」続けて「卒業生が加西に戻ってきて、応援隊として練習に参加してくれるようになったら嬉しいですね」と将来を語ります。

災害支援や劇団、こども狂言塾の応援隊など、次世代にバトンを渡すことを考えているといい「加西が好きだから。そのための旗振り役ならいくらでもやりますよ」。若い世代のチャレンジが明るい未来を創る。これからの社会を担う世代にバトンを繋ぐべく、今日も精力的に動きます。

地域への情熱 舞台に込めて

100年以上の歴史を持つ洋品店で店長として働きながら、災害支援や劇団、こども狂言塾応援隊など、幅広く地域のために活動する高瀬由美さん。彼女を突き動かす原動力は何なのか。これまでの活動や加西の将来に対する思いを伺いました。

「感情をきちんと表現して！家で練習してきた？」熱のこもった指導で、自然と声にも力が入り舞台に響き渡ります。声の主は高瀬由美さん。こども狂言塾の応援隊をしています。5月4日に開催される加西能に向けて、応援隊の皆さんが熱心に指導されています。「お稽古の度に毎回演出が変わっていくんです。思うように出来ず悔し泣きする子どももいますが、みんな覚えるのが早くて。私の方が負けていますね」と汗を拭いながら笑います。

高瀬さんは本業の傍ら、他にも劇団やイベント開催、市の事業や災害支援など多岐にわたって活動しています。

自己表現の場

「感情をきちんと表現して！家で練習してきた？」熱のこもった指導で、自然と声にも力が入り舞台に響き渡ります。声の主は高瀬由美さん。こども狂言塾の応援隊をしています。5月4日に開催される加西能に向けて、応援隊の皆さんが熱心に指導されています。「お稽古の度に毎回演出が変わっていくんです。思うように出来ず悔し泣きする子どももいますが、みんな覚えるのが早くて。私の方が負けていますね」と汗を拭いながら笑います。

高瀬さんは本業の傍ら、他にも劇団やイベント開催、市の事業や災害支援など多岐にわたって活動しています。

被災地に笑顔を

「加西市民劇団おおきな木 団員募集」の記事が目飛び込んできました。「へえ、加西にも劇団があるんや」。幼い頃にピアノ教室から観に行った宝塚がきっかけで興味を持ち、中学から大学まで演劇部に所属。中でも、演出など舞台裏の独特な雰囲気が好きで「久々にやりたい」と思い入団しました。

ここでは、団員らで脚本・演出を手掛け、根日女や北条鉄道、五百羅漢など、加西にまつわる作品を演じ、公民館などで定期的に公演をしています。また、協賛金集めやチラシ作り、広報活動など制作準備もします。

劇団への入団と同じくして、青年会議所に入会します。その半年後、阪神・淡路大震災が起こりました。すぐに給水や炊き出し支援をすることが決まり、毎週2回、神戸まで炊き出しに行きました。「言われるまま活動していたので、災害支援に行くハードルの高さも感じず、支援活動は普通のこと」と話します。

以降、田山川の氾濫や淡路島の台風被害、東日本大震災、熊本地震発生時も支援に行きました。「こいつらボランティア活動は若い子と一緒に行くんです」。震災